

提出日: 2022 年 8 月 30 日(火)

## 「学生シリーズ講義第 2 弾」の活動報告書

報告者: 工学研究科 生命分子工学専攻 博士後期課程 1 年 沖田 ひかり

### 【企画者】

- ・川瀬 雅貴 (生命農学研究科 動物科学専攻 博士後期課程 3 年)
- ・吉田 純生 (生命農学研究科 動物科学専攻 博士後期課程 2 年)
- ・谷川 未来 (生命農学研究科 動物科学専攻 博士後期課程 1 年)
- ・任 亮 (生命農学研究科 動物科学専攻 博士後期課程 1 年)
- ・田中 良來 (理学研究科 物質理学専攻(化学系) 博士後期課程 1 年)
- ・沖田 ひかり (工学研究科 生命分子工学専攻 博士後期課程 1 年)

### 【企画の概要】

学生講師による講義を通して異分野知識を気軽に学べる場を設け、さらに学生が積極的に交流できるコミュニティを提供した。前年度の学生シリーズ講義第 1 弾では主に生物学中心であったことを踏まえ、今回はデータ・デザイン・化学など多岐に渡るテーマで学生シリーズ講義を開催した。

### 【開催の背景と目的】

化学・生物学・薬学分野といった多様な研究背景を持つ GTR 生が融合研究を行う上で、異分野知識は必須となってくる。しかしながら、多忙な研究生活において一人ではじめから学ぶのには限界がある。そこで、普段の講演会とは異なり、素朴な疑問もしやすい、“学生”の、学生”による、学生”のための”講義を開催することにした。すでに、前年度より”異分野理解を深める”学生主体のシリーズ講義が実施されていたので、本院生企画ではその理念を引き継ぎ、継続することにした。

また、本院生企画では主に以下の 3 つの項目に注力し、運営することを心掛けた。

- ✓ 受講者に異分野研究の魅力を伝え、融合研究のさらなる発展につなげる。
- ✓ 発表者に将来のリーダーとして必要不可欠な説明力を養う機会を提供する。
- ✓ 研究者間での活発な異分野交流を通して新たなネットワーク形成の場を築く。

### 【開催内容】

“学生シリーズ講義第二弾”として様々な学問領域に焦点を当て合計 3 回のシリーズ講義を開催した。また、講義を見逃してしまった方やもう一度見たい方のために、講義動画のアーカイブ化も行った。

●第1回

データの読み方、魅せ方、みんなのミカタ!

開催日時: 2021年8月17日(火) 15:00-17:30

プログラム: \*イベント開催当時の所属・学年を記載している

15:05-15:40 岡 大椰 (生命農学研究科 博士後期課程3年)

『時代は二刀流?』

~ RとPythonを用いた麹菌ゲノムと転写因子の解析 ~

16:00-16:35 田中 健二郎 (創薬科学研究科 博士前期課程2年)

『生命科学で活用される多変量解析』

16:45-17:20 瀧口 あさひ (工学研究科 博士後期課程3年)

『視覚的に研究を伝える方法』

~ センスに頼らず知識で描く ~

開催場所: 理学C館2階 化学第3講義室&Zoom

ポスター:

2021GTR 院生企画セミナー

# 学生シリーズ講義

GTR  
Nagoya University

**vol.1: データの読み方、魅せ方、みんなのミカタ!**

膨大なデータをどう見極める?  
図をもっと魅力的なデザインへ!

3人の学生講師とデータ解析と研究の魅せ方を学ぶアットホームなセミナーです

**岡 大椰 生命農学 D3**  
時代は二刀流?  
RとPythonを用いた麹菌ゲノムと転写因子の解析  
時間: 15:05 ~ 15:40

**田中 健二郎 創薬科学 M2**  
生命科学で活用される多変量解析  
時間: 16:00 ~ 16:35

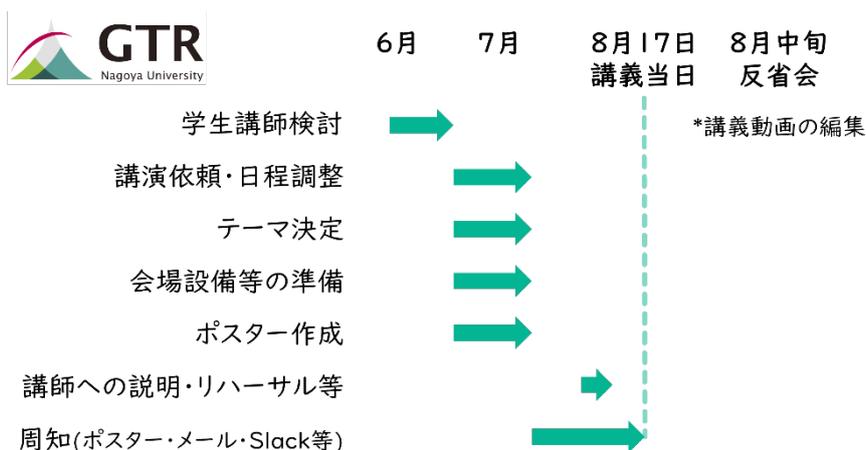
**瀧口 あさひ 工学 D3**  
視覚的に研究を伝える方法  
~センスに頼らず知識で描く~  
時間: 16:45 ~ 17:20

**8月17日(火) 15:00-17:30**  
理学C館2階 化学第3講義室 & Zoom  
オンサイト・オンライン併用講義!  
懇親会(今回は飲食なし)もあります。ネットワークを広げよう!

企画  
川瀬 雅貴 生命農 D2  
沖田 ひかり 工 M2  
谷川 未来 生命農 M2  
任 亮 生命農 M2

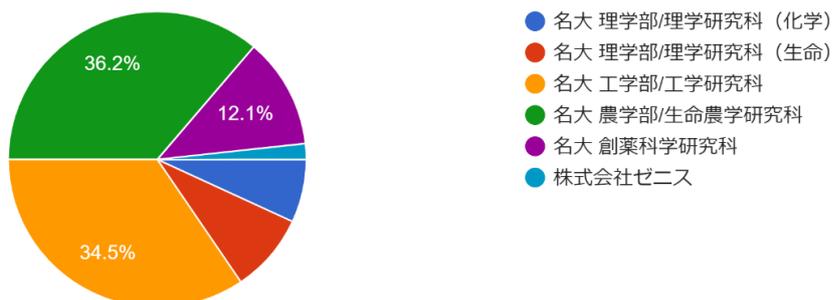
参加登録こちらから →  
連絡先  
gtr.gakusei2020@gmail.com

【当日までのスケジュール】



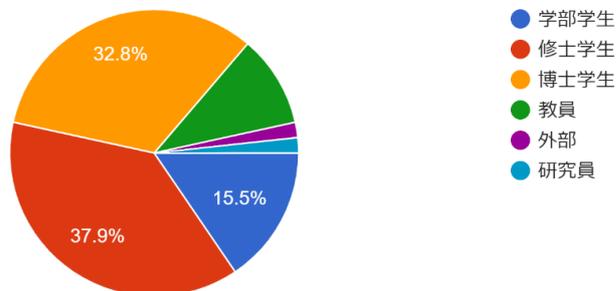
【参加人数】 57 人 (参加申込時のアンケート結果より)

所属  
58 件の回答



\*二回回答している方が一名いた。

学年/教員  
58 件の回答



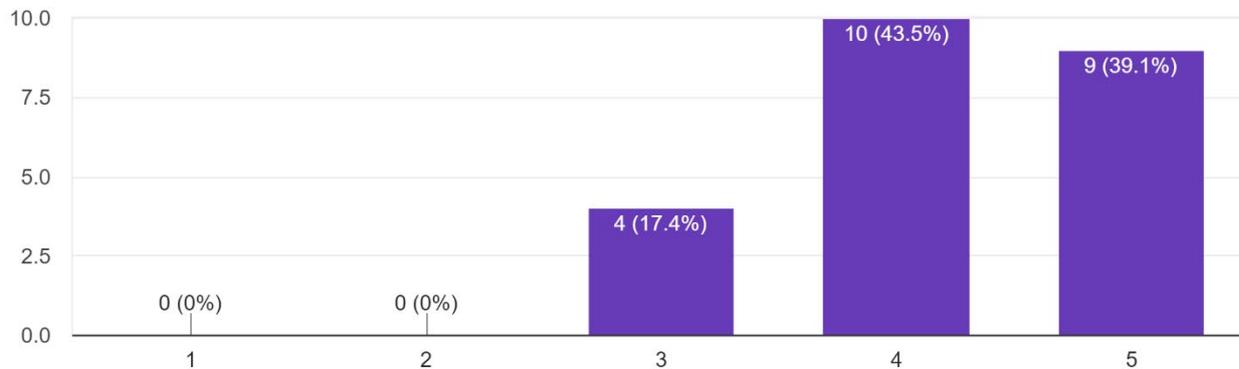
\*二回回答している方が一名いた。

講義後のアンケート結果(回答者数 23 人)より、65%がオンライン、35%がオンサイトで参加していたことがわかった。

### 【講義後のアンケート結果(回答者数 23 人)】

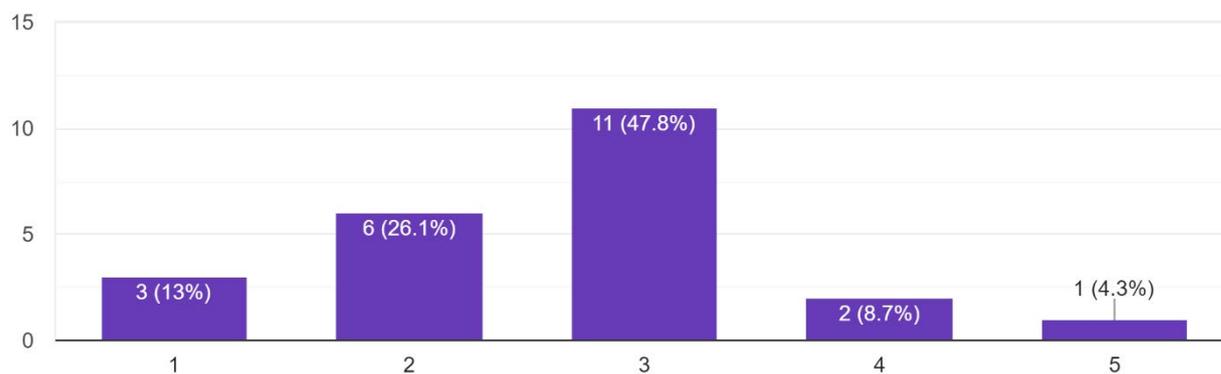
◆全体的な満足度 \*1が”不満足”、5が”満足”を意味する。

23 件の回答



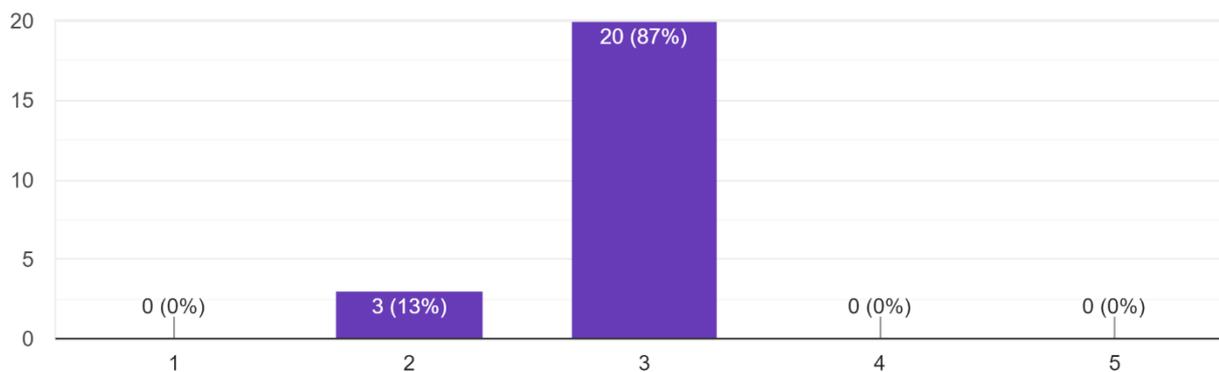
◆講義の難易度 \*1が”易しい”、5が”難しい”を意味する。

23 件の回答



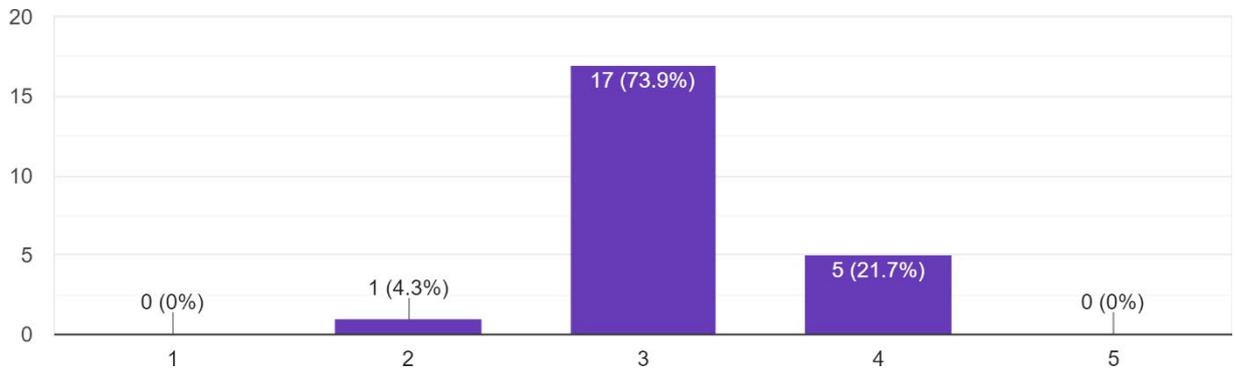
◆一つの講義時間の長さ \*1が”短い”、3が”ちょうどよい”、5が”長い”を意味する。

23 件の回答



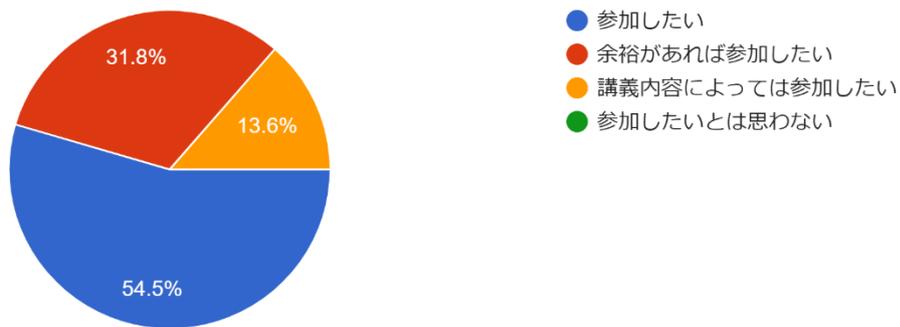
◆イベント全体の時間の長さ \*1が”短い”、3が”ちょうどよい”、5が”長い”を意味する。

23件の回答



◆次の学生シリーズ講義にも参加したいと思ったか

22件の回答



アンケート結果のまとめ

満足度が”普通”から”満足”に分布していたので、受講者の多くが本イベントに満足できたと考えられる。また、難易度に関しては理解しやすかったと回答する人が多く、講義時間に関してもちょうどよいと回答する人が多かった。しかしながら、イベント全体の時間がやや長いと感じる人もいた。

テーマが「データ」ということもあり、分野に関わらず学生が知りたいと思う講義内容であったため、参加者も多く、高い満足度が得られたと考えられる。

●第2回

シグナルはどこから来たのか？応答は何か？生物はどうなるのか？

~D'où vient le signal ? Quelle est la réaction ? Où va l'organisme ?~

開催日時: 2021年11月10日(水) 15:00-17:30

プログラム: \*イベント開催当時の所属・学年を記載している

15:15-15:50 手嶋 裕文 (創薬科学研究科 博士後期課程2年)  
『皮膚とHIF』

16:00-16:35 羅 倩倩 (生命農学研究科 博士前期課程2年)  
『How Intertissue Communication in Plant Grafting?』

~ Insights into Hormonal Signaling in Rootstock-Scion Interaction ~

16:45-17:20 前田 明里 (理学研究科 博士前期課程2年)  
『植物が時間を知る仕組み』

開催場所: ITbM1階レクチャールーム&Zoom

ポスター:

2021GTR 院生企画セミナー

# 学生シリーズ講義

vol.2: シグナルはどこから来たのか？ 応答は何か？ 生物はどうなるのか？  
D'où vient le signal ? Quelle est la réaction ? Où va l'organisme ?

生き物たちを取り巻く様々な環境シグナル  
生き物たちが巻き起こす多様な応答

3人の学生講師と共に  
"シグナル"と"生物応答"を学ぶアットホームなセミナー！

	手嶋 裕文 創薬科学 D2 皮膚とHIF 15:15~15:50	
	Qianqian Luo 生命農学 M2 How Intertissue Communicate in Plant Grafting? Insights into Hormonal signaling in Rootstock-Scion Interactions 16:00~16:35	
	前田 明里 理学 M2 植物が時間を知る仕組み 16:45~17:20	

11月10日(水) 15:00-17:30

ITbM1階 レクチャールーム & Zoom  
オンサイト・オンライン併用講義！  
懇親会もあります。ネットワークを広げよう！

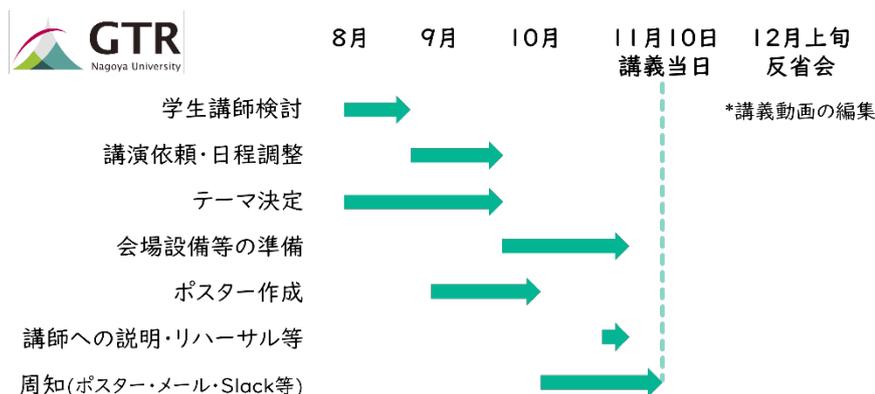
連絡先: gtr.gakusei2020@gmail.com

参加登録サイト

甲中 良未 理生 M2  
任川 亮未 命農 M2  
沖田 未来 工生 M2  
吉田 ひかり 生農 M2  
川瀬 雅生 生農 M2  
企画 種生 生農 M2

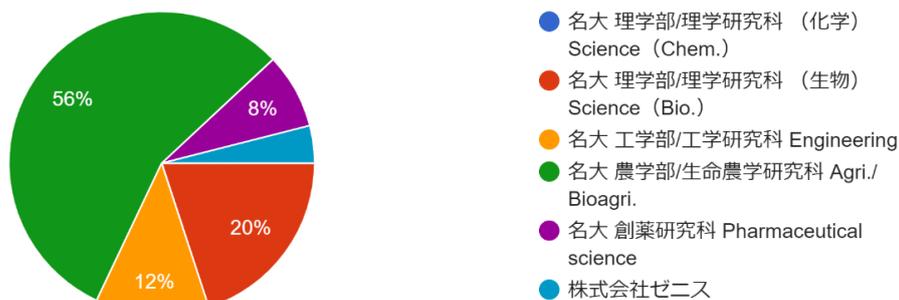


## 【当日までのスケジュール】



## 【参加人数】 24 人 (参加申込時のアンケート結果より)

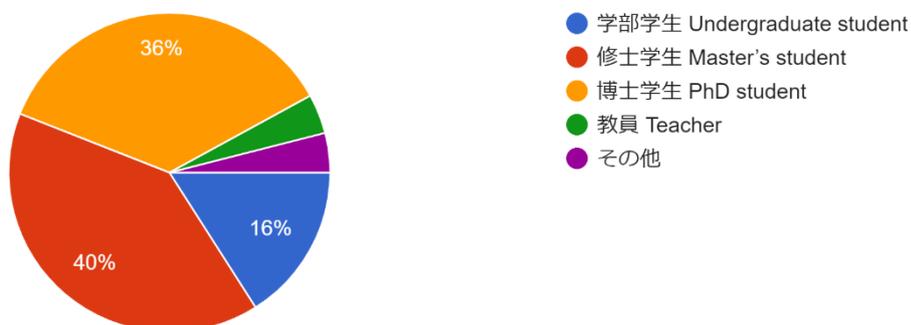
所属組織/Affiliation  
25 件の回答



\*二回回答している方が一名いた。

学生/教員 (Position)

25 件の回答



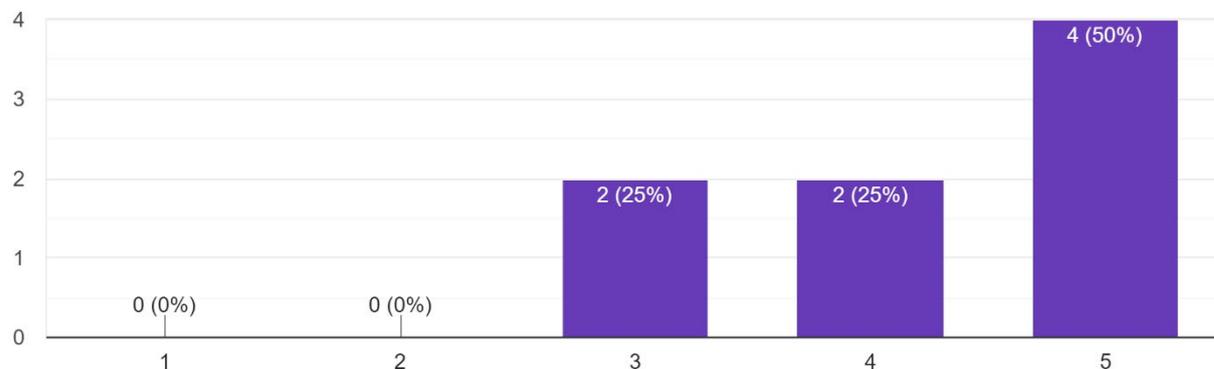
\*二回回答している方が一名いた。

講義後のアンケート結果(回答者数 8 人)より、63%がオンライン、37%がオンサイトで参加していたことがわかった。

【講義後のアンケート結果(回答者数 8 人)】

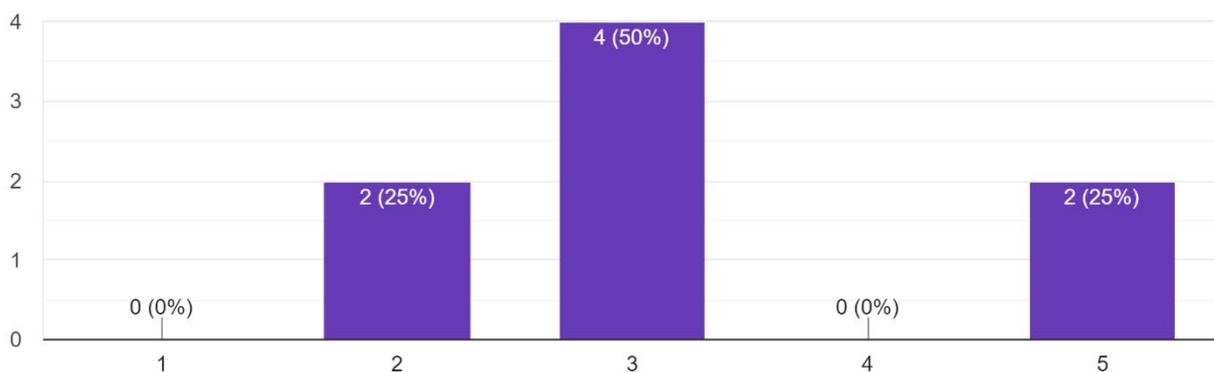
◆全体的な満足度 \*1が”不満足”、5が”満足”を意味する。

8件の回答



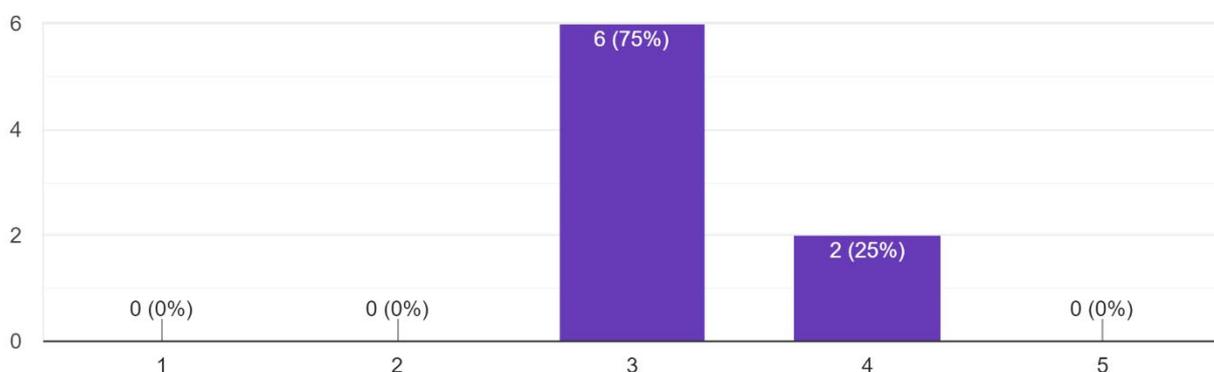
◆講義の難易度 \*1が”易しい”、5が”難しい”を意味する。

8件の回答



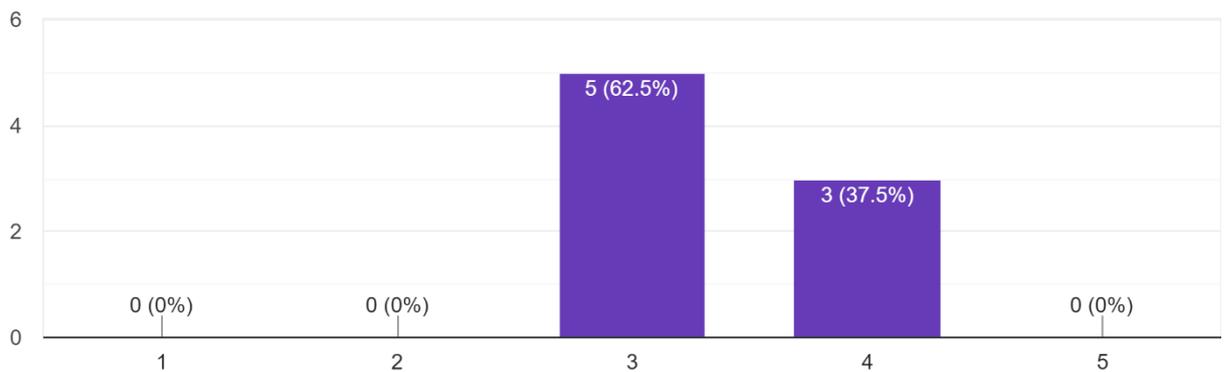
◆一つの講義時間の長さ \*1が”短い”、3が”ちょうどよい”、5が”長い”を意味する。

8件の回答



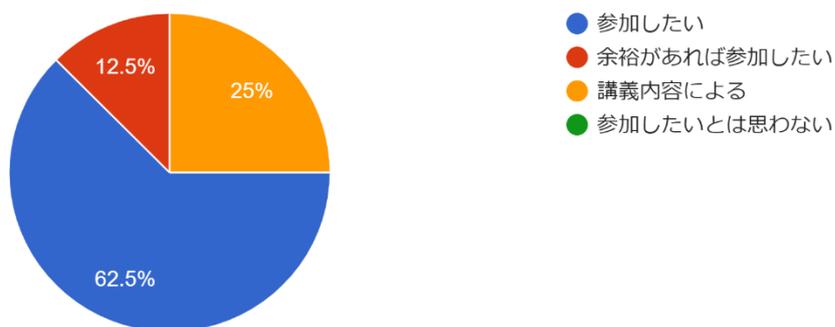
◆イベント全体の時間の長さ \*1が”短い”、3が”ちょうどよい”、5が”長い”を意味する。

8件の回答



◆次の学生シリーズ講義にも参加したいと思ったか

8件の回答



アンケート結果のまとめ

満足度が”普通”から”満足”に分布していたので、ほとんどの受講者が本イベントに満足できたと考えられる。「次の学生シリーズ講義に参加したいか」という問いに対して62.5%の受講者が「参加したい」、12.5%の受講者が「余裕があれば参加したい」と回答していたので本イベントは非常に好評だったと思われる。その一方で、難易度に関して難しいと感じる人や講義時間に関して長いと回答する人も多かった。今回のシリーズ講義の内容が”生物寄り”であったため、他分野の受講生にとってはやや取っつきにくい内容だったかもしれない。

●第3回

学生よ！ 化学の視点を手に入れろ！ ～生物学を支える化学の知識～

開催日時: 2022年4月26日(火) 15:00-17:30

プログラム: \*イベント開催当時の所属・学年を記載している

15:15-16:00 米村 開 (理学研究科 博士後期課程3年)

『全領域対応型の化学』～生物無機化学～

16:10-16:55 大橋 咲南 (理学研究科 博士後期課程1年)

『よりよい mRNA 医薬品の開発に向けて』

17:05-17:50 田中 良来 (理学研究科 博士後期課程1年)

『分子の光で生命を見る』

開催場所: ITbM1 階レクチャールーム&Zoom

ポスター:

学生よ！ 化学の視点を手に入れろ！  
～生物学を支える化学の知識～

GTR  
Nagoya University

2022GTR 院生企画セミナー  
VOL.3: 学生シリーズ講義

米村 開 理学 D3  
全領域対応型の化学  
—生物無機化学—

大橋 咲南 理学 D1  
より良い mRNA 医薬品の  
開発に向けて

分子の光で生命を見る  
甲中 良来 理学 D1

4月26日(火) 15:00-17:30

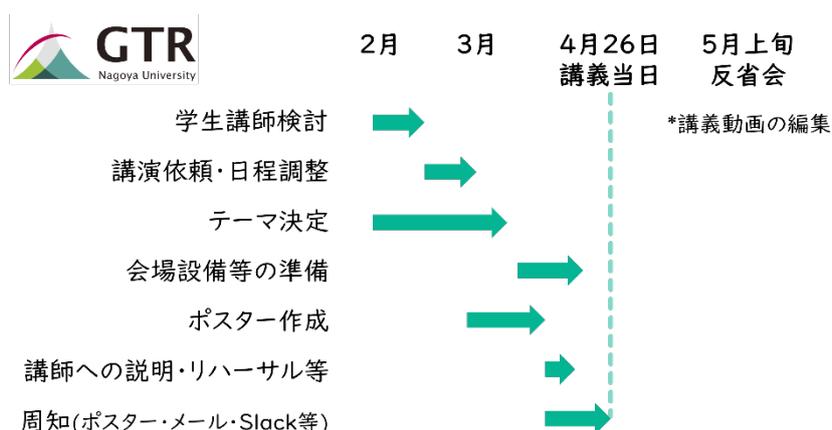
ITbM1階 レクチャールーム & Zoom  
オンサイト・オンライン併用講義！  
懇親会もあります。ネットワークを広げよう！

連絡先: gtr.gakusei2020@gmail.com

参加登録サイト

企画: 川瀬 雅真 生命農  
吉田 純生 生命農  
谷田 ひかり 生命農  
沖田 未未 生命農  
任 亮 生命農  
田中 良来 生命農

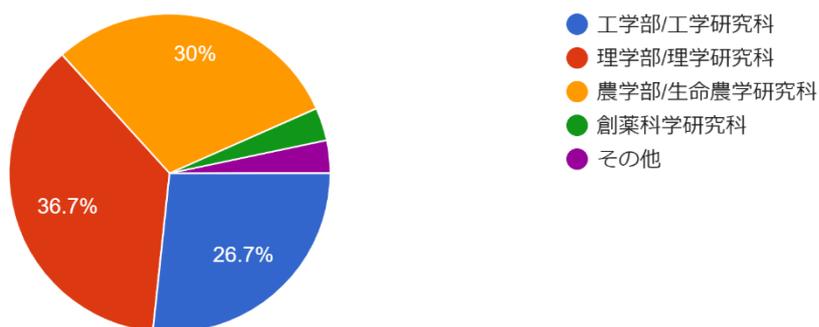
## 【当日までのスケジュール】



【参加人数】 30人 (参加申込時のアンケート結果より)

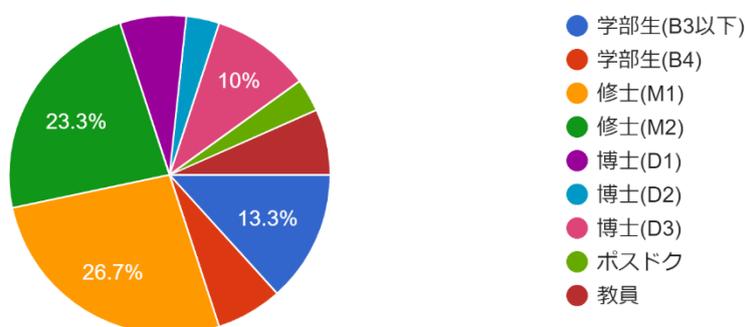
### 所属

30件の回答



### 学生区分または役職

30件の回答

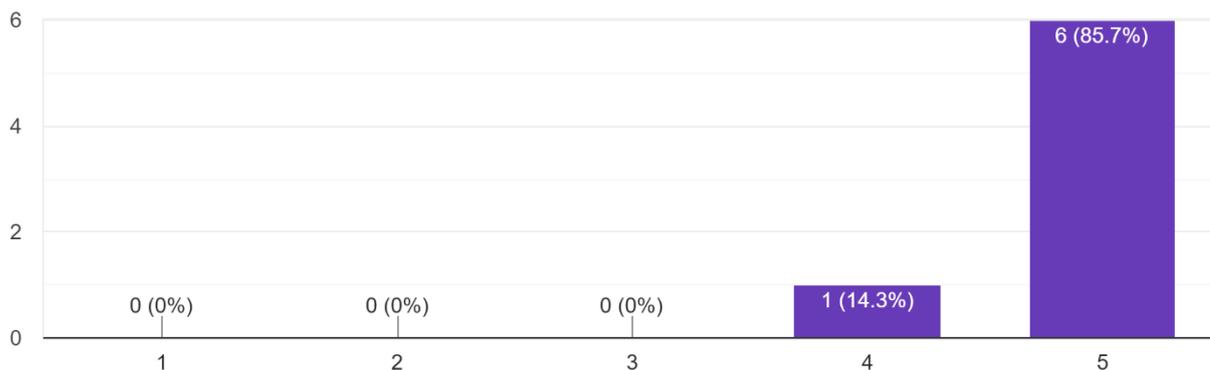


講義後のアンケート結果(回答者数7人)より、57%がオンライン、43%がオンサイトで参加していたことがわかった。

【講義後のアンケート結果(回答者数 7 人)】

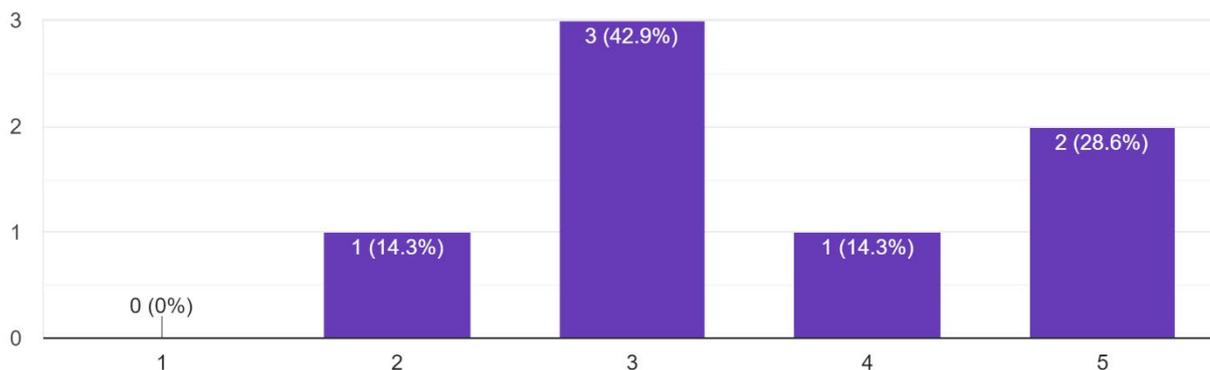
◆全体的な満足度 \*1が”不満足”、5が”満足”を意味する。

7件の回答



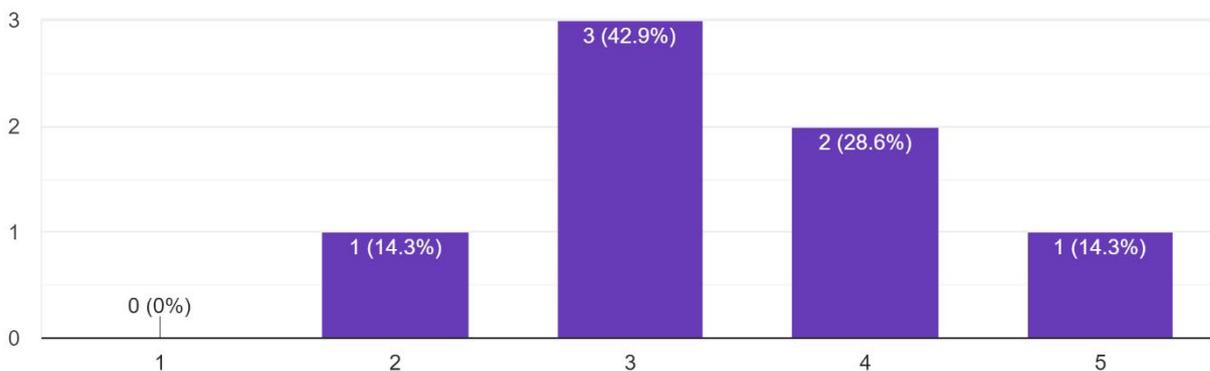
◆講義の難易度 \*1が”易しい”、5が”難しい”を意味する。

7件の回答



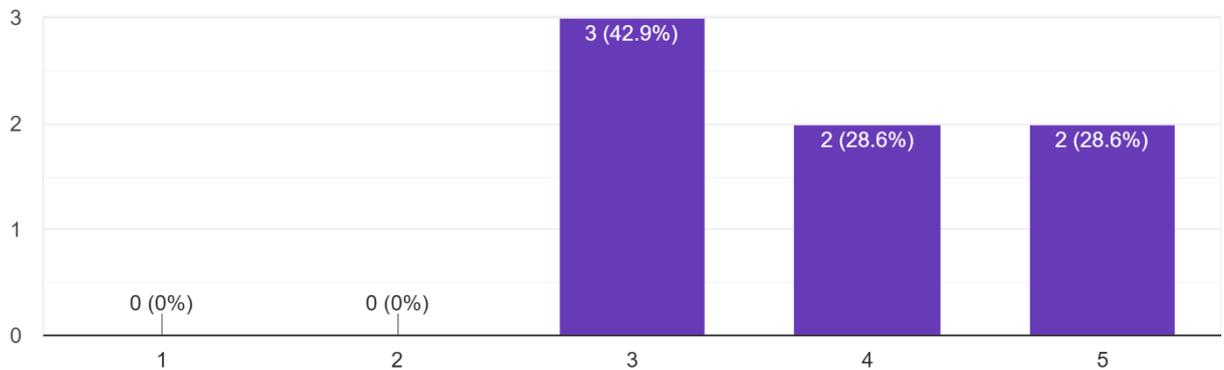
◆一つの講義時間の長さ \*1が”短い”、3が”ちょうどよい”、5が”長い”を意味する。

7件の回答



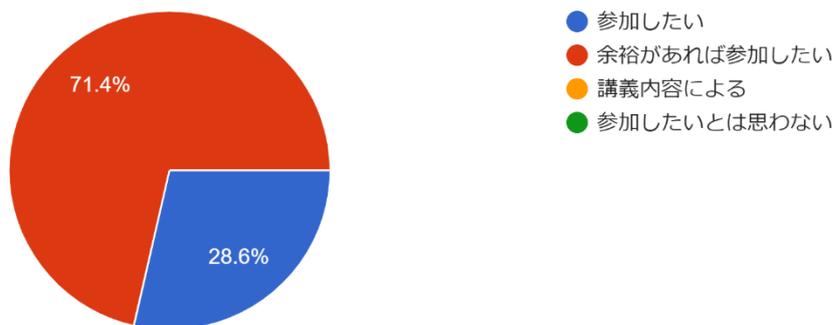
◆イベント全体の時間の長さ \*1が”短い”、3が”ちょうどよい”、5が”長い”を意味する。

7件の回答



◆次の学生シリーズ講義にも参加したいと思ったか

7件の回答



アンケート結果のまとめ

今回の学生シリーズ講義では満足度の質問に対して”満足”と答える人が85.7%を占め、「次の学生シリーズ講義に参加したいか」という問いに対しても28.8%の受講者が「参加したい」と回答し、71.4%の受講者が「余裕があれば参加したい」と回答していたので本イベントは大変好評であったと思われる。その一方で、難易度や講義時間の長さに関しては回答にばらつきがあった。

### 【本企画の成果】

本院生企画では多様な学術分野が集結した GTR の最大の強みを活かすことで、各シリーズ講義を通して新たなネットワークを形成できたと考える。また、前年度からの継続的な活動だからこそ、長期間にわたり多方面の異分野知識を身に付けることができるので、これらの知識が将来的に融合研究を行う上で生きてくると予想される。特に講師側は「わかりやすい講義を心掛け」、その際に「自身の研究分野の知識をより深め」、最終的に「異分野からの質問を受けて自身の研究分野を多面的に見直す」機会となった。一方で受講側も「異分野知識を深める」ことができ、加えて「質疑応答や議論を通じて思考力や発想力を養う」機会となった。

最後に本企画では学生の主体性を育むことに重点を置いており、全シリーズ講義を通して学生間の積極的な議論を交わすことで研究者として必要な思考力・発想力を培うことができたと考える。

### 【今後の企画】

アンケート結果を通して、微生物や物理化学、再度化学分野等の要望があったので、それぞれを各回のテーマとして掲げ、学生シリーズ講義を運営していく予定である。

### 【謝辞】

本企画の運営・実施に至り、名古屋大学大学院 卓越大学院プログラム トランスフォーマティブ 化学生命融合研究大学院(GTR)プログラムにご支援して頂きました。学生講師を快く引き受けて下さった方々ならびに GTR 学生支援室の皆様、企画者一同、心より厚く御礼申し上げます。